

IR ニュース



福山大学
FUKUYAMA UNIVERSITY

2019 年 7 月 <第 4 号>

巻頭言

福山大学 IR 指標の編纂と IRer 養成の必要性

IR 室では、本学に存在するデータの中から、IR 業務の目的に必要な指標を選定する作業を行いました。2019 年 2 月 22 日の IR 協議委員会で原案を配付して、各部署で IR 指標としての妥当性、新たに追加する項目などを挙げてもらい、「福山大学 IR 指標（案）」を編纂しました。

「福山大学 IR 指標（案）」は、大区分として「教学」「研究」「財務・経営」を置き、現時点で 176 の指標を定めています。これからも随時、指標は追加・修正していく必要があります。平成 30 年度教育振興助成金研究報告会（7 月 17 日開催）で展示・説明しましたが、Karin の「情報公開」のライブラリでも公開中です。是非、Karin の「情報公開」でご確認いただき、気づいた点についてはご連絡ください。

ところで、「福山大学 IR 指標（案）」を編纂する過程でわかったことは、IR 業務には各部署の理解と協力が不可欠であり、部署間の連携をさらに進める必要があるということでした。今後、IR 業務を通じて教職協働を促進するため、学内有志による IR セミナーを開講して IRer を養成していく予定です。データを IR 室へ提供するだけでなく、データ収集と作成の段階から自ら大学の戦略に資するデータは何かを考えて、新たな IR 指標を提案できる人材を各部署に配置することを目指します。このような IRer が各部署で推進役となり、本学の大学改革及びブランディング構築に向けて、大学構成員全員が関与する仕組みが必要です。皆様の、積極的なご参加を期待しています。

学長補佐（IR 担当）兼 IR 室長 平 伸二

IRer 募集中

私たちと共にデータ分析にご協力いただける方を募集中です。

目次

巻頭言	1
活動報告 1	2・3
お知らせ・イベント	4
活動報告 2	4

活動報告 1 第 1 回 Tableau × 大学 IR セミナー in 関西 2019

(会場：CIVI 研修センター新大阪)

開催日時：2019/6/14、13:30～17:30

発表者：大阪大学、神戸学院大学、上智大学

参加者：40 名（定員）

対象：大学教職員（参加者の専門は、文系、理系問わず、また、職員が大半）

内容：Tableau を使った IR 業務の取り組み事例の紹介および Tableau ハンズオンセミナー

第 1 部は Tableau をどのように業務に活用していけるのか、今後運用していく上で起こりそうな問題点、改善方法について具体例を挙げて紹介されました。

第 2 部は、サンプルデータを用いたハンズオンセミナー（初級レベル）が行われました。

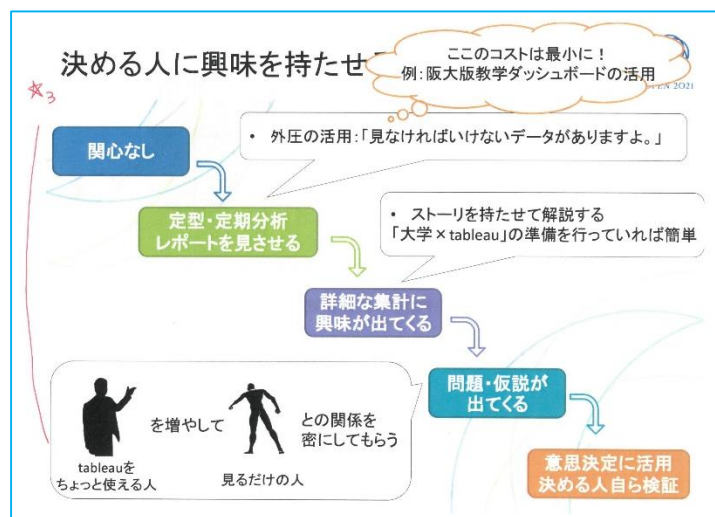
Tableau は、多くのデータを一度にストレスなく瞬時に利用できる「データの可視化ツール」です。IR 部署でどのように Tableau を活用しているのか、先行して取り組まれてきた IR 担当の教職員から事例の発表がありました。

まず、大阪大学の和島雄一郎先生は、大学のデータを「効果的」「効率的」に利用する際に起こる（トラブルになる）点について、解決した方法を大阪大学での事例をまじえて紹介されました。ここで、「大学のデータ」とは、大学でどこかの部署に依頼したら資料（データ、表を含む）として提出（配布）されるすべてのデータを指します。その元になるデータを用意する際は、以下のことに気を付ける必要があると言われていました。

Tableau を使ってデータを整理し提出した際に起こったこと（（ ）内は片桐のコメント）

1. データ定義が不明－「この集計、間違っていない？」
（データを分かる人（担当者、作成者）が集計に関わっていますか）
2. 何を作ればいいのかわからない。－「他大学ではどうしているの？なるほど、でもこれは本学には合わないねえ」
（導入時の悩み、まずは指標例から）
3. Tableau を使う気がある人が少ない。－「紙でみたいなあ」「Excel で整形してくれない」
（バリバリ使える人に負担が集中）
4. オーダーがあいまい－「いや、みたいものとはちょっと違うんだよなあ」
（やりとりが遅くなり、見るだけの人の興味が薄れていく）
5. 答えが欲しいと言われる－「で、結局どうすればいいわけ」
（上層部に興味を持たせる、上層部を巻き込もう）
6. そもそもデータに興味がない－「はい、大変貴重なデータありがとうございました。お疲れ様でした。」
（見せ方の工夫できている？）

右図は、上記の 5、6 の説明の際に提示つれたスライドです。



神戸学院大学「教学 IR 推進活動」について、藤野津芳さん

IR 部門としては、大事なことは、「上層部が何を考えているのかに目を向けること」が重要である。

そうして、「何をどう可視化すべきか」、「可視化できるのかについて」、「可視化するには何が必要で何が足りないのか」、担当者（データに熟知した人を含む）で情報を共有する。「教員」と「職員」間での「協力が欠かせない」と言われていました。

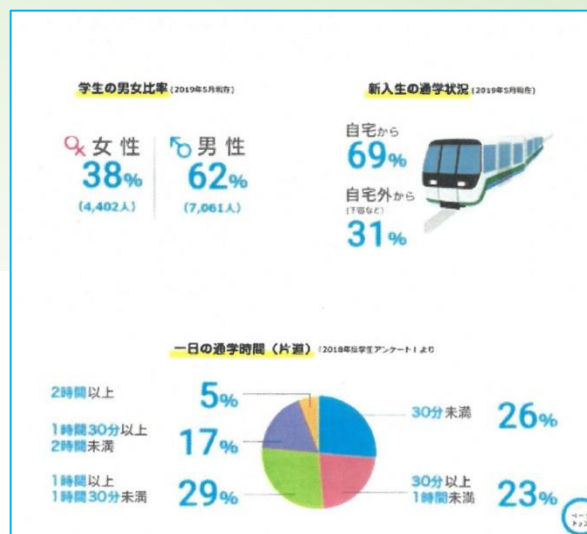
つぎに、今あるデータを Tableau などを使って可視化することによって、「業務効率の改善」が可能になり、そこから新たな「副次的な業務の質的改善（案）」などが、自発的にあるいは、IR 部門からの提案として提示することで、Tableau が「教学 IR の学内浸透に不可欠なツール」となったと言われていました。最後に、右図（セミナー資料より）は、Tableau で整理したデータを依頼により、図化したことで数値データだけでは見落

としがちな情報が浮き彫りになり、広報等で利用されたと紹介されていました。

上智大学（相生芳晴さん）「Tableau の大学におけるライセンス事情」についての講演でした。

上智大学は、Tableau の導入が早く、先進的な取り組みが行われている大学で、今回、ソフトの有効性についてのお話でしたがたいへんわかりやすく、有意義な講演でした。

また、ハンズオンセミナーも担当されており、Tableau の使い方についての初級編とその応用事例を実際に体験いたしました。内容が多くまた、市販の本に触れられていない内容も含まれていましたがこちらもたいへん勉強になりました。（下図はセミナー時に作図）



最後に、今回のセミナーを通して、感じたことは、大学では日々、要請によりさまざまな部署で、「問題提起」、「新案の発案」がなされ、その対応として、データの「集計」や「準備」が行われ多くの情報（データ）が用意されては、新しいものが要求されていると思います。大阪大学の和嶋先生や藤野さんが経験されたことを今までは現場レベルで対応してきました。これからは、上層部及びさまざまな部署間の垣根を超えた情報の整理が必要な時代へと変化してきているその流れを感じました。本学の IR 室が誕生し、1 年が経ちますが、データの提供部署であるとともに、大学内のハブとして活用いただけたらと思います。教員・職員を問わず、さまざまな業務の効率化、情報の可視化を目指してともに活動いただける IRer にあなたもなりません。

（片桐 記）

○北海道 FDSD フォーラム 2019

主催 北海道FD・SD 協議会, 北海道大学高等教育推進機構高等教育研修センター

【日時】 令和元年9月6日(金) 12:30-17:45 ～ 9月7日(土) 10:30-16:15

【場所】 北海道大学高等教育推進機構(札幌市北区北17条西8丁目)

【参加費】 無料

【対象】 全国の大学関係者及び教育産業関係者

【申込方法】 申込みフォーム: <https://ctl.high.hokudai.ac.jp/20190906fdsdforum/>

○FDer 養成講座 & SDC 養成講座 in 東京

主催 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(教職員能力開発拠点)

芝浦工業大学教育イノベーション推進センター(理工学教育共同利用拠点)

【日時】 令和元年10月11日(金) ～ 10月13日(日)

【場所】 芝浦工業大学 芝浦キャンパス (東京都港区芝浦3-9-14)

【受付期間】 7月17日(水)正午～8月19日(月)正午

【申込方法】 申し込みフォーム: <https://web.opar.ehime-u.ac.jp/info/newsid00006/>

【定員】 FD 養成講座: 先着50名 SD コーディネーター養成講座: 先着30名

【参加費】 無料

活動報告 2 平成30年度教育振興助成金研究報告会

(会場: 大学会館 CLAFT)

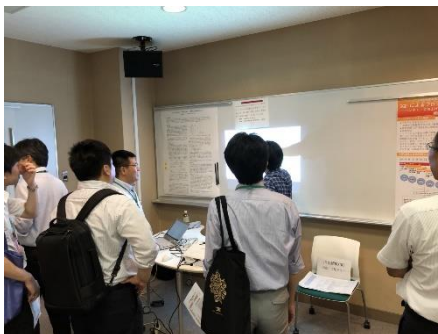
7月17日(水)に大学会館 CLAFT において平成30年度教育振興助成金研究報告会が開催されました。この助成を受けてIRに関する調査「IRのための学内データ統合の試み ―教育方法改善を目的として―」を報告いたしました。

調査の背景としてIR室の成り立ち、IRの役割について示し、学内のデータの運用状況についての調査結果を報告いたしました。今後データを大学運営に活用するためには、分析と意思決定のための体制づくりが必要であり、IRerの協力が重要であると感じております。

報告会では多くの方に掲示物やTableauによる実演をご覧いただきました。また以下のようにご質問やご意見を多くいただきました。

- ・Tableauの有効性は理解した。講習会を開催してほしい(S先生)
 - ・履修支援の施策にどのように結びつけていくのか(F先生)
 - ・学力の印象がグラフで確認できた(O先生)
 - ・成績データを学生相談と組み合わせて検討できないか(T先生)
 - ・良好な単位修得・成績のモデルをデータで示せるか(F先生)
- いただいたご意見等は今後のIR室の活動に反映させていただきます。

(記谷 記)



編集後記

活動報告でもご紹介いたしましたが、TableauというBIツールは可視化の機能に優れております。研究報告会でも関心をもっていたいただきました。普及のための企画を考えています。確定しましたらお知らせいたします。

IR ニュース <第4号>
2019年7月末日発行

編集	IR室
編集委員	平 伸二
	占部 逸正
	片桐 重和
	記谷 康之

ご意見・ご要望がございましたら
下記までご連絡ください。

Email: irwg@fukuyama-u.ac.jp